

2026年度 群馬県立女子大学文学部文化情報学科

転入学及び編入学試験

採点のポイント

問題 1

解答例 1

一つの解釈は、A 氏、B 氏、C 氏の 3 人にそれぞれ、必ずしも同じではない支持政党がある、例えば、A 氏は X 党を、B 氏は Y 党を、C 氏は Z 党を支持している、という支持政党分散型解釈である。もう一つの解釈は、ある特定の 1 つの政党（例えば X 党）のことを、A 氏と B 氏と C 氏の 3 人ともが全員支持している、という支持政党一極集中型解釈である。（ア）のような文にこのような二つの解釈ができてしまうのは、「みな」という言葉と「ある」という言葉のせいだと考えられる。前者の解釈では「みな」に対して「ある」がかかっているのに対し、後者の解釈では逆に「ある」に対して「みな」がかかっているように思われる。このように（ア）のような文では、「みな」と「ある」のかかりかた、どちらがどちらにかかっているのかが明らかでないために、上のような二つの解釈ができてしまうのだと考えられる。(372 字)

採点のポイント

(a) 「A 氏」「B 氏」「C 氏」「X 党」「Y 党」「Z 党」の名前を適切に用いて、二つの異なる解釈を自分なりに明確に表現しようとしている。片方の解釈だけしかできていない場合は 15 点満点とする。解釈の表現に不明確な点、不十分な点、不正確な点があれば、採点者の裁量で適宜減点する。

(b) 「みな」と「ある」という表現が（ア）の曖昧性の源であることに気づき、自分なりに指摘できている。

(c) そこからより踏み込んで、「みな」と「ある」の依存関係（従属関係、支配関係、作用域、スコープ）の曖昧性について、自分なりの言葉や表現で、何とか表現しようとしている。

解答例 2

(ア) は (一階) 述語論理で、 $\forall x \in I \exists y \in P (xRy)$ と $\exists y \in P \forall x \in I (xRy)$ という二つの仕方形式化できる。ここで、 $\forall$ は「みな」に対応する全称量化子、 $\exists$ は「ある」に対応する存在量化子、 I は 1 番地の住人の集合、 P は 2 番地の政党の集合、 xRy は「 x は y を支持している」を表す二項関係述語、である。前者の形式化では $\forall$ の作用域の内側に $\exists$ が現れているのに対し、後者の形式化では逆に $\exists$ の作用域の内側に $\forall$ が現れている。このように、(ア) のような自然言語の文では明らかでない「みな」や「ある」のような量化表現どうしの依存関係を、(一階) 述語論理では式形成の順序によって構文上明確にできる。逆に言えば、(ア) のような自然言語の文ではそのような量化表現どうしの依存関係が構文上明確でないために、このような二つの形式化 (解釈) ができてしまう。(341 字)

採点のポイント

(a) (一階) 述語論理の知識に基づいて、(ア) の二つの形式化の可能性をある程度正確に指摘できている。ただしそこまで厳密性を求める必要はない。

(b)

一般に自然言語では、全称量化子 $\forall$ にあたる「みな」のような量化表現と、存在量化子 $\exists$ にあたる「ある」のような量化表現が組み合わされることで生まれる、多重量化による作用域の入れ子関係が構文上特定しにくい。そのことが (ア) の曖昧性の源であることを、ある程度正確に指摘できている。ただしそこまで厳密性を求める必要はない。

※万が一、解答例 1・2 以外で、なるほどと思われる想定外の斬新な二つの異なる解釈が現れた場合は、その妥当性、独自性、啓発性を、採点者の裁量で評価する。

問題 2

採点のポイント

「新しいメディア技術が社会や文化のなかで支配的なものになってゆくと、場合によってはほとんど気がつかないうちに、人間の思考、生活、文化のあり方全般を規定するものになってゆく」という本文の要旨を適切につかみ、VR（ヴァーチャルリアリティ）、人工知能（AI）など、本文中で例示されている、あるいはそれ以外の「現在のきわめて高度なメディア」の事例を挙げながら、それらがわれわれの認識、判断や価値観を無意識のうちに左右していることを説得的に論じられていることを評価のポイントとする。

採点の目安

1. 設問の理解（1）

「現在のきわめて高度なメディア」の事例を挙げられているか。

映像、音声、文字テキストなど、我々の基本的なコミュニケーション技術がデジタル化された技術の例を正しく挙げるが出来ているか。

2. 設問の理解（2）

「新しいメディア技術が社会や文化のなかで支配的なものになってゆくと、場合によってはほとんど気がつかないうちに、人間の思考、生活、文化のあり方全般を規定するものになってゆく」という本文において最も重要と思われる主張を、該当箇所の原文を引く、あるいはその大意を汲み取って指摘できているかを評価。

3. 議論の展開

上記 1、2 を踏まえた上で、メディア技術が我々の身の回りの文化、社会を無意識のうちに支配し、また我々はいかにその状況に依存しているか、その功罪を批判的視点とともに、自らの言葉を用いて説得力をもって論じられているかを評価する。